

岐大通2014

2014 J.League Division2

F C 岐阜大好き通信 (岐大通)

7/20号

第22節 横浜FC戦

編集発行：『岐大通』製作委員会

今号の製作担当：

ささたく&吉田鎔造

7/20 18:00 @岐阜メモリアルセンター長良川競技場

today's guest : 横浜FC 2013 J2 15勝13分14敗 勝ち点58:第11位

Jリーグ“オリジナル10”のメンバーである『横浜フリューゲルス』の『横浜マリノス』への合併に際し、フリューゲルスのサポーターの活動により設立。設立当初は“ソシオ制度”によるクラブ運営など、独自色が際立っていた。設立時点よりJリーグ加盟に対する強い志向を持ち、特例によりJFL準加盟として創部1年目より全国リーグで活動。JFL 2連覇(2年間で3敗しかしなかった)を経て2001年にJリーグ加盟。2006シーズンの開幕戦の敗戦で監督が高木琢也氏に交替(第1戦終了での監督解任はJ初らしい)すると快進撃をみせ、見事にJ2で優勝、J1昇格を果たすが、翌年は最速でJ2への降格が決まる。2012年は第3節の敗戦で監督が『横浜フリューゲルス』最後のキャプテン・山口素弘になるとチームは好転。シーズンを4位で終え『J1昇格プレーオフ』に臨むが、初戦で5位・千葉に敗れ6年ぶりのJ1昇格はならず。(吉田鎔造)

W杯中断期間があった訳でもないJ2だが、アウェイ戦が続いて1ヶ月振りのホーム戦となるFC岐阜。6/21のホーム長崎戦では先制しながらも追いつかれてのドロー。6/28アウェイ札幌戦は、2点差を追いついたものの、後半ロスタイムに勝ち越されての悔しい敗戦。しかし続く7/5、若手選手主体にメンバーを入れ替えて臨んだアウェイ熊本戦では、見事に3-0で勝利を収め、1ヶ月(4試合)ぶりの勝ち点3を手にすることができた。(また、先週7/12には天皇杯2回戦が行われ、FC岐阜は長崎とアウェイの地で対戦したが1-3で敗戦し、トーナメントを去った。)

これで2014年シーズンの前半戦が終了したが、FC岐阜の成績は7勝4分10敗、得点28失点31、勝ち点25の16位でシーズンを折り返すこととなった。ちなみに昨年の同時点での成績は4勝5分12敗、得点16失点38で勝ち点17の22位だが、今年の(現時点での)評価は、サポ諸兄の今シーズンへの期待度によって大きく異なることだろう。さて7勝した対戦相手を見てみると、現在10位の京都以外はすべて岐阜より下位のチームから獲た勝利。その点では、大きな取りこぼしはしていないと見ることもできるが、「上位食い」も出来ていないと見ることもできる。また#9ナザリトと#24難波の2人が7得点を挙げて得点ランキング6位にいるように、得点力ではリーグ6位であるにも関わらず、失点はリーグ19位(ワースト4)。後半戦は得点力を維持しつつ、失点を減らすことが出来れば、もっと上の順位も夢ではないだろう。事実、上位を見てみると、1位・湘南(勝ち点60)が独走し、2位の磐田と3位の松本(ともに勝ち点43)が追いかけているものの、4位・岡山(勝ち点33)から勝ち点6差に14位・水戸(勝ち点27)までが入っているという、まさに大混戦の様相だ。FC岐阜も、ひとつ勝てばこの大混戦レースに飛び込むことができる。今節は、対戦が一巡して後半戦の初戦、なによりホーム・長良川で6/1京都戦以来、僕らはFC岐阜の勝利を見ていない。なんとしても勝ちたい試合だ。

さて、その今節の対戦相手は現在19位の横浜FC。4試合連続ドローと、状態としては悪くはないものの、今ひとつ調子にも乗れていないチームだ。FC岐阜との通算対戦成績は5勝3分7敗、前半戦では4/13・第7節に対戦し、ナザリトのPKで1-0と勝利を収めている。下位の相手でもあり、しっかりと勝ちきたい試合だが、油断は禁物だ。ホームでの対戦成績は3勝5敗と負け越している。また前回の対戦も勝利したものの、岐阜のシュートはわずかに2本(しかも後半0本)、#33阿部の退場もあり、横浜には12本のシュートを撃たれながら何とか守りきったという内容だったことを忘れてはいけない。横浜FCは#2杉山と#6高地と#24難波と、そして田口貴寛ヘッドコーチにとっても古巣のチーム、普段以上の活躍にぜひ期待したい。

また、7/18~8/15までは第2登録期間(ウインドー)であり、各チームとも新戦力の補強を図る期間に入る。岐阜にも新しい選手の加入が期待されるが、その影響か、クラブからは#16MFスティッベ選手と#18MFド・ドンヒョン選手の退団という寂しいニュースも発表された。これまでの彼らの活躍に心から感謝したい。

シーズン序盤はベテラン中心の布陣だったが、コンディションが厳しくなる夏に入って若手中心に切り替え、熊本では結果も出した。ラモス監督も嬉しい悩みだろう。後半戦の大事な初戦、誰を起用するのかにも注目したい。さあ、ここからFC岐阜の反撃の狼煙を上げようじゃないか。

(ささたく)

2014J2

■順位表■第21節

勝点、得失点差、得点、失点、岐阜戦の戦績(岐阜から見て)

1	湘南	60p	+40	49	9	H●
2	磐田	43p	+18	37	19	H●
3	松本	43p	+15	33	18	A●
4	岡山	33p	+3	21	18	A●
5	北九州	33p	-1	22	23	H△
6	福岡	32p	+4	30	26	H●
7	栃木	32p	+3	26	23	H●
8	山形	31p	+9	26	17	A●
9	札幌	30p	+3	24	21	A●
10	京都	30p	+1	31	30	H○
11	千葉	30p	0	26	26	H△
12	大分	30p	-7	21	28	A●
13	長崎	27p	+3	25	22	H△
14	水戸	27p	+2	23	21	A●
15	愛媛	26p	+2	24	20	A△
16	岐阜	25p	-3	28	31	---
17	熊本	24p	-10	21	31	A○
18	群馬	23p	-7	20	27	H○
19	横浜FC	20p	-7	16	23	A○
20	東京V	16p	-14	13	27	A○
21	讃岐	11p	-27	14	41	H○
22	富山	8p	-29	11	40	H○

次回HomeGame

第24節 ファジアーノ岡山戦
7/30(水) 19:00 ←平日です!!
@岐阜メモリアルセンター
長良川競技場



本庄工業株式会社
<http://www.honjo-woodream.com/>

岡田歯科医院

岐阜市加納新本町1-23
tel:058-273-8998

ALADDIN

何も無い店だけど..
心の花が咲く..
何も無い店だけど..
心癒される..
忘れかけていた喫茶店がある
岐阜市昭和町3丁目(木ノ本公園東)



「いらっやいませ」より「おかえりなさい」が似合う
アットホームな韓国料理店。
『チヂミ屋』は
JR岐阜・名鉄岐阜駅から
徒歩3分。
休:月曜(定休日が変わりました!)

投稿募集!!

gidaidohri@
hotmail.co.jp

【第19節】岐阜 1-1 長崎

●立ち上がり早々ナザリトのPKのこぼれ球をアレックスが決めて先制したのも束の間、しばらくしてすぐ追いつかれてしまう…。全体的に長崎の時間帯が続いたまま前半が終わり、このままではまずいと思っていたら後半から美尾→泰輔と選手交代をするとともに、システムを3-5-2に変更したらこれが見事にはまり、優位に試合を進めることができたものの、ドローのまま試合終了…。先週の磐田戦に続く1万人越えの中での試合だっただけに、勝ちたかったです、勝ち点1を得られたことを前向きに捉えたいと考えます。それにしても観戦無料というのは効果絶大なのですかね？今日は会社の方や近所の方など何人かにお会いしました。どれだけ岐阜市民の方が来場されたかは分かりませんが、少しでも多くの方にまた試合見に来ようと思っていただけなら幸いです。

個人的にはシステムの変更でこうもサッカーが変わるものかというのを、楽しく見る事ができて良かったです。

約ひと月 Home 戦が遠ざかりますが、札幌、熊本と遠征で勝ち点を重ねて帰ってきてもらいたいものです。(岐阜の誇り)

●完敗だった前節の磐田戦。それでも、クラブ史上最高の観客動員でヴィジョンに映し出された数字を見た時は、少しばかり感慨が湧いてきたのだけれど、内容が内容だけに喜びもひとしお……というワケにはいかなかったのが残念だった(苦笑)。

そして、迎えた長崎戦。この試合が前期のホーム最終戦であり、このあと札幌、熊本と続く遠距離移動。これだけでも難儀なのに、さらに熊本戦後に長崎での天皇杯が組まれるという、とんでもなくハードな日程。できることなら、そのまま九州に居残ってコンディションを整えてほしいと思ったりするんだが、なかなかそういうワケにもいかないだろうな。そのうえ、長崎とはこの試合を皮切りに7月には天皇杯を長崎で、8月にはリーグ戦をやはり長崎で、と3か月連続で対戦しなければならない。たぶん、8月の対戦の時には「また、オマエらか……。」とつぶやいてるんじゃないかしらん？

そんな相手だからこそ、最初の顔合わせで叩いておきたかったし、磐田戦同様、たくさん詰めかけてくれた方々に満足してもらえるような結果が欲しかった。それでも、得点シーンがあっただけよかったかな。いきなりの得点よりも、終盤の手に汗握る場面でのゴールの方がインパクトを与えられるんだけど、それはゼイタクというものか。実際のところ、前半は長崎の方が優位を保ってやりたいサッカーをやっていた。逆転されなくてよかった、という状況で後半に入ったら、いきなりシステム変更。しかも、今季は見たことがない3バック。でも、それが功を奏するんだから、サッカーって難解で不思議なスポーツだ。終了間際に危ない場面を2、3回作られたけど、後半途中まではこちらが主導権を握っていたし、得点こそ生まれなかったけど、初めて見た方にも楽しんでもらえるスリリングな展開。手放しでは喜べないけれども、次節にも希望が持てる試合だったんじゃないかな。後半の勢いをそのまま持ち込んで、今季こそ札幌の地で勝ち点3を挙げて祝勝会がやりたいです！(ぐん)

●対長崎戦というと、とにかく序盤はだぁーっつとやられてしまうという印象が強い。昨年のホーム戦はものすごい勢いでだぁーっつとやられて先制されるものの、岐阜の暑さから後半には長崎の脚が止まって最後は染矢のまさに『サヨナラ・ゴール』で勝利した。一方、アウェー戦ではそのだぁーっつと来る勢いが少しおとなしく、おかげで長崎は脚が止まらず0-3と完敗だった。

で、今年の試合。試合開始早々にPKをいただいて、PKそのものは失敗(ナザリトのキックはGKに止められる)だったけど、リバウンドをアレックスがしっかり叩いて先制。とはいえ、やはり岐阜 vs 長崎は「前半は圧倒的に押される」展開

になる。同点にされるのは時間の問題だと思ってたらやっぱり同点にされちゃって、「さぁどうする監督？」と対応に興味があったのだけど、ラモス監督の策は驚きの3バック。で、これがビックリするくらい機能しちゃって、後半はずっと岐阜が長崎を押しまくる展開になる。でも、その時間帯にゴールが奪えないと厳しいよね。最後はカウンターも何度か喰らって冷汗モノの勝ち点1。

あれだけ押し込んだのだから勝敗とは無関係に「1点は奪わなくちゃ」と思ったのだけど、試合後の監督のコメントを読むと「練習でもやったことなかった」とあってまたビックリ。勝ち点1だったけど、それは『勝ち点3獲れた』と『勝ち点0でなくてよかった』を足して2で割った『勝ち点1』だったのだなあ、と思った。(吉田 Casting)

【第20節】札幌 3-2 岐阜

●「試される大地。北海道」…ってのは北海道が掲げているキャッチフレーズなんだけど、FC岐阜にとっては正に試練の地・北海道。通算4試合でわずか勝ち点1(つまり1分3敗)、しかも無得点8失点。しかし今年こそは勝つ！と乗り込んだんですが…ねえ…(溜息)。

なんか前半は両チームともフワフワした感じで、まともに戦えていなかったように感じた。前半にもったいない(シュートブロックをすり抜けて)失点をしてそのまま後半に入って、カウンター1発で2失点目…このまま惨敗かと一瞬覚悟したけど、逆に(やっと)選手たちのスイッチが入ったみたいで、直後に#19 益山のシュートで1点を返し、その後も攻勢をかけて、#30 遠藤のJ初ゴールで同点！…と、ここまでは良かったのだけど。その後、折角残り5分で同点になったのに「アウェイで勝ち点1を持って帰るか？それとも勝ち点3を狙うか？」の意思統一がチームとしてしっかり出来なかったというか、試合の終わらせ方が甘かったというか。パワープレーを仕掛けてきた札幌、そのために投入された#40FW丁成勳に、ロスタイムに失点…さすがにガックリでした。ただ、2失点するまでの試合内容だったら、それどころじゃなかった(苦笑)から、「悔しい」まで持ってきたと評価しないといけなかなあ…ともかく、2失点するまでの試合が本当にもったいなかった。ラモス監督の激怒にも納得でした…(溜息)。

唯一の成果は、#30 遠藤純輝の初ゴール、かな。これまで期待されながらもゴールを挙げられずにチームを去ったFWを思うと、やはり0と1の間には、激しく深い隔たりがある訳で。それを自ら乗り越えてみせた純輝、岐阜県(関市)出身の若きFWの将来に期待しちゃいます。(ささたく)

●北海道はスゴクお気に入り土地で、それはボク以外にも多くの方が賛同していただけたと思う。今回も飲み物、食べ物、そして買い物とほぼ満足な遠征だった。が、如何せん肝腎の勝ち点がね……。今季も札幌無勝の黒歴史に終止符は打てなかった。まあ、長良川でも一回しか勝ってないんだけど(苦笑)。たしかに90分走り切るのは厳しい。だから、90分走り切れとは言えない。もちろん、走り切ってくれたら泣ける。それに、前半完璧な試合運びをしたチームが、後半見る影もなくなっちゃうことも多々あるのは知っている。けどね。札幌戦後半の、あるいは長崎戦の後半の、せめて半分くらいいいから前半からエンジンかけてくれてたら勝てたんじゃない？と思うのは素人ゆえのあさはかな考えなのかな。もしかして、「前半はよかった」より「後半はよかった」の方が評価が高い、とか思ったりしないだろうか？まあ、それは冗談だけど、ヨシカツのビッグ・セーブがなかったら、前半で雌雄は決していたと、これは過言でなくそう思う。あと、失点には至らなかったけど、CKにしちゃったアノしょーもないプレー。あんなのはこれっきりにしてください。元代表があれば困る。

それにしても、流れが来て途中で勝ち越せない。その辺りが力不足なのかな？それが今回も露見した、ということか。この試合をスタンドから観戦していたというオノシンジとやらがいたら、どんな試合にされていたか。結局、札幌のいい引き立て役になってしまった。純輝の初ゴールやタクミの惜しいシュートもあっただけに、返す返すも残念でならない。この借りは、(といってももうズイブン溜まっているけれど)ノシもつけて長良川で返してやりたい。そして、来年こそは札幌でバンザイ四唱と凱歌を挙げて、念願の祝勝会で歓喜に浸りたい。そういうワケですから、札幌サンには是が非でもJ2に残留していただきたい。よろしくお願いします。締めくくりとして、繰り返しになりますが一言。初ゴール、おめでとう！純輝。次のゴールは勝利を決めるゴールにしようぜ！！(ぐん、)

●とにかく、今年の「どうしようもなかった」0-4のアウエー札幌戦と比較すると「試合になってよかったよ」という感じ。あの時は『悔しさ』ではなく『情けなさ』だったけど、この試合はとにかく『悔しさ』が残った。でも『悔しさ』が残る試合になってよかった」ともいえる。前半0-1だったのだけど、もし相手の中盤に小野伸二がいたらウチの守備陣は自在に『走らされて』前半のウチに試合にならないレベルにまで戦闘力を落とされていただろう。それくらい、前半の内容は絶望的だった。

後半からの3バックはホーム長崎戦と同じ。前半はホントに「縦に勝負しない」益山とアレックスの両SBだけど、3バックになって両者がSBからWBになると相手ゴールエリア付近にまで顔を出すようになって攻撃が急に活性化する。負傷の高地に替わって入った清本も前線に顔を出して分厚い攻撃を見せてくれる。でも、サッカーは11人でやっている競技だから「前が厚くなる」ことは「後ろが薄くなる」ことと等しい。どうしても終了間際にはDF陣が堪えきれなくなる。この試合もそうだった。「パワープレーしか打つ手がない」札幌にパワープレーで仕留められてしまった。後半のイケイケ3バックを視て「最初から3バックでいけばいいじゃん」という声をネットでは少なからず見かけるのだけど、いまの岐阜だとその3バックは45分すら保たないのだ。

純輝のとんでもない初ゴールを目の前で視れて、だからこそ勝ちたかった、少なくとも勝ち点は持って帰りたかった。でも、これこそが“勝負”の世界、なんだよね。

これで智大、諒人、純輝とセカンドからの昇格3人が全員ゴールを決めた。キチンと若手が育って来ている。新加入のベテランが注目された今季だけど、べったりと暑くなる岐阜の夏には若手の活躍が不可欠。今後の彼らの活躍には大いに期待したいし、期待できるような気がする。(吉田鑄造)

【第21節】熊本0-3岐阜

●先週は札幌、今週は熊本。どんな罰ゲーム的なアウエー連戦…と思いついて行ったんですが(苦笑)、いやー、行って良かった！！ベテラン選手を思いきって外して(札幌の敗戦で、ベテラン選手が相当しごかれてたという噂も聞こえてきたが(苦笑))、若手主体のスタメン(でも、札幌戦で負傷退場した#6高地は出るんだ…と安心と不安が混在したんだけど)。しかし、きちんと結果を出してくれました。特に#30遠藤純輝！しっかりと前線からの守備をしてチームに貢献して、1点目の高地のゴールも、彼がボールを必死に追ったので相手が処理をミスしたからだし。後半も足が止まらずボールを追って熊本の守備陣を疲れさせてたし、後半39分にはその甲斐あってDFを振り切って切り返して、見事なゴール！看板を飛び越えて僕らの前まで来て大きく吼えたのは、正直痺れた。これで札幌戦でのJ初ゴールに続いて2戦連続のゴール、シーズン後半戦は否が応でも期待しちやいますよね(笑)。#19益山も2戦連続ゴール、最後まで上下動を繰り返してたし、い

いくロスを上げてたのでSBに覚醒したかも？守備陣も(危ないシーンはあったけれど)しっかりと守りきってた。特に#31GK時久は好セーブが何度も光った。福岡県出身だって記憶はあったんだけど、考えてみたら熊本県立大津高卒。親御さんも応援に来てるとすれば、そりゃ普段以上に気合いも入るってものですよ…。試合後にも「僕らはスタメンが約束された選手じゃない」と更に闘志を燃やしてましたし、今後の正GK争いが楽しみです。

5,550人の観客が入ったスタジアム、岐阜サポは…声だし20人、全部でも50人ぐらいだったかな？でしたが、試合終了と同時に5,500人が静まり返る中で、響き渡る岐阜サポの「アイダ(凱行進行曲)」。これが気持ちいいの何のって、これが(時々)あるからアウエイ遠征がやめられません(笑)。土曜日のナイターだったから、試合後に宿泊組の仲間と熊本市内で祝勝会、美味しく馬刺しや辛子レンコンなどの熊本名物と焼酎(熊本の胸スポンサーに敬意を表して「白岳」をいただきながら感想戦。これもまた、アウエイ遠征の醍醐味です(笑)。(ささたく)

●勝った！3点差がついたところで確信してはいたけれど、それでもアディショナル・タイムが5分という「フザけた」時間を示していたので(苦笑)、「早く終われ！ケガすんなよ……」という祈りの長かったこと。久しぶりの勝利は5試合ぶり、6月1日の京都戦以来約一か月。アウエイ勝ちも黄金週間の東京V戦、最後の国立以来で、3点差勝ちも第2節のホーム富山戦以来等々、いろいろ記録を紐解かねば思い出せないくらい久しぶりの勝ち星だった。

メンバーを思いっきり入れ替えてのリーグ戦の前半最終節は、試合の入りからここ数試合大敗が続き、ホームで気合入れ直してきた熊本に攻め込まれ、いくつもピンチの場面に訪れて、それを久々スタメンの時久がビッグ・セーブで防ぐ。そんなイメージだったんだけど、帰宅してから録画を見ると、そこまで一方的に攻め込まれてるわけでもないのかな？という感じで、またしても現地と結果のわかった試合の印象のギャップを味わったわけだが、こんな味わいならいつでも大歓迎！ボク個人のマン・オブ・ザ・マッチは時久。いくつものビッグ・セーブと積極果敢な守備で熊本を完封。スタジアムにもほど近い地元・大津高校の出身で、岐阜側ゴール裏にご両親と思わしきご夫婦も観戦に訪れていたし、彼にも期するものがあったことは間違いない。勝利インタビュー後にゴール裏に高地や純輝とともに来てくれて、その挨拶で「スタメンが約束された選手ではないので、これからも頑張ります！」と言っていたのが印象に残った。録画で確認したらインタビューでも同じことを言っていたので、いつもその思いを胸に努力を積んでいるんだな、と改めて思った。立ち足はだる壁は大きいけど、それを乗り越えてほしいと願う。その時久のビッグ・セーブから生まれた先制点。相手GKへのバックパスを諦めることなく追いかけた純輝の走りがミス呼び込み、高地が冷静に流し込む。あの場面でロビングボールではなく、グラウンダー、それも右側からのDFが届かないようにカーブをかけていたことを録画で確認してシビレた。純輝の追加点も、勝利を決定づけた司のダメ押しゴールも流れの中の美しい得点。二試合連続ゴール揃い踏みなんて今まであったっけ？タクミもアシストという結果を出してくれたし、それ以外のランもドリブルも見せてくれた。彼もおばあ様やご両親の前で活躍を披露できて面目躍如といったところか。今回も彼のご両親から飲料水の差し入れをいただきました。本当にありがとうございます。

毎回こんな結果が出せるとは思わないし、実際紙一重の試合だったけど、やることをやってくれば得点できる、勝ち点3が取れる。そう思わせてくれた試合だった。そして、いよいよ勝負の後半戦。期待を遥かに超える活躍を見せてほしい。そう願って、今日も応援します！(ぐん、)

【天皇杯】長崎 3-1 岐阜

●試合当日の午前3時に出発。試合終了後のかたづけを終えた8時半に長崎を出るといふ弾丸日帰りツアー。片道9時間、往復18時間だったが、仲間の運転のおかげで快適な移動だった。これで、結果が出ていたんなら言うことはなかったんだけどね(苦笑)。

リーグ戦前期最終節の熊本戦と同様若手中心のメンバー。リーグ戦の札幌、熊本、そしてこの長崎と、もう無慈悲、苦行としか言いようがないアウェイ3連戦に対してターン・オーバー、選手の入替えをするのは当たり前のこと。天皇杯の翌週には休みなくリーグ戦が始まるという状況の下、チャンスを与えられた選手がどんな結果を出すか、不安でもあり楽しみでもあった。先週の熊本戦に引き続き、若手が活躍してくれたら……、と願っていたのだけど、やはり相手が違えば結果も違う。正直に言うと、相手の長崎もこのところ結果が出せていなかったんで「あわよくば……」と思っていたんだけどね。とはいえ、3失点したけど、公式戦初出場の岳志はよくやったと思う。失点はいずれも彼にとってはノーチャンスに見えた。逆にフィールドプレイヤーは体が重いのか、動きが長崎に比べると鈍かったが、前の試合に引き続きホーム開催となった長崎との差が(それだけが原因ではないと思う)出たのかもしれない。現地に駆け付けた25人前後の岐阜サポーターにとっては、いささか欲求不満が募る内容と結果だったが、昨季の対戦ではノー・ゴールだったこのスタジアムで得点を挙げる事ができたことはよかったと思う。長良川での長崎戦の感想にも書いたけど、長崎とは3か月連続で試合をすることになっている。6月の長良川、今回。そして、来月3日。またしても、長崎まで行かなきゃならないのは閉口だけど、今度こそ勝ちたいからね。全力で応援してきます!(ぐん、)

《編集人より一言》

クラブの公式発表ではなく、あくまで編集人・吉田鑄造の手集計なのですが、今日のFC岐阜 vs 横浜FC戦がFC岐阜の創設通算450試合目の公式戦になります。

2001年 県1	11 試合	8勝1分2敗
2002年 県1	19 試合	16勝0分3敗
2003年 県1	20 試合	18勝0分2敗
2004年 東海2	20 試合	12勝0分8敗
2005年 東海2	20 試合	12勝5分3敗
2006年 東海1	38 試合	33勝2分3敗
2007年 JFL	38 試合	20勝9分9敗
2008年 J2	44 試合	11勝12分21敗
2009年 J2	55 試合	19勝14分22敗
2010年 J2	37 試合	13勝6分18敗
2011年 J2	39 試合	6勝6分27敗
2012年 J2	43 試合	7勝14分22敗
2013年 J2	43 試合	9勝10分24敗
2014年 J2	22 試合	7勝4分11敗

合計 449 試合 191勝83分175敗

全公式戦ですので、リーグ戦以外にも天皇杯(県予選を含む)、全国社会人大会(東海予選を含む)、東海社会人トーナメント、地域決勝、入替戦を含みます。プレシーズンマッチは含んでいません。(吉田鑄造)

【ユース】残念!天皇杯予選

●まずは天皇杯県予選を兼ねる岐阜県サッカー選手権大会について。我々がFC岐阜ユースU-18(以下FC岐阜ユース)は6/22に大垣市の浅中運動公園で社会人第2代表のGiocatore Classicと準決勝で対戦しました。前半は相手の厳しいボールチェックに戸惑い、自分たちのミスも有って先制点を許してしましますが、後半は徐々に自分たちのペースを取り戻し、得点を重ね、終わってみれば4対1で勝利しました。続く29日には長良川競技場にて岐阜経済大学と全国大会出場をかけて対戦しました。この日はトップチームと試合が重ならなかった事もありますが、とても沢山のお客さんに応援に来て貰えました。NHKの中継も有ったし、多分選手たちはこんな環境の中での試合は初めてなんだろうな〜とシミジミしていました。

試合は前半から岐阜経済大学のペースでしたが、FC岐阜ユースも最終ラインでことごとくボールを跳ね返して、前半は0対0で折り返します。後半はFC岐阜ユースのボールでKO。早々にうまく抜け出したFC岐阜ユースが先制点を奪います。これには応援席は大盛り上がり(嬉)。でも岐阜経済大学は全然慌てずに自分達のプレーに徹していき、試合のペースを渡さず攻勢を強めて行きます。連戦の疲れが有ったのかFC岐阜ユースの選手達の足が止まる中、岐阜経済大学の選手たちは走る、走る!そして岐阜経済大学による同点、そして逆転、更に決定弾としっかり得点を重ねて結果的には1対3で力尽きての敗戦となりました。試合後にピッチ上で崩れ落ちて泣いている選手たちの姿が印象的でした。これで今年2回目の全国大会への道が断たれてしまいました。

次にG1リーグについて。6/28に第6節関商工、7/5に第7節岐阜工業、7/12に第8節長良高校と対戦しました。この中では第7節の岐阜工業との直接対決で5対2と大敗を喫し、リーグ首位の座を岐阜工業に明け渡しましたが、翌第8節の長良高校戦に勝利し、この節で岐阜工業が関商工に負けた為、リーグ首位の座に返り咲きました。昨日19日に第9節中京高校との対戦が行われている筈ですが、結果はどうだったのでしょうか?

この後はしばらく夏休みの中断時期となります。次の試合は8/30に第10節の帝京大可児Bの対戦です。そしてこの試合から後半戦となります。

頑張れよ、応援しているからね!FORZA!FC岐阜ユース!!

※試合会場・時間は変更の可能性があります。必ず岐阜県サッカー協会の公式サイトでご確認下さい。

(シュナ)

ありがとう、スティッペ。これからは、ライバル。

●7/11、#16MFスティッペ選手の退団が発表された。少し覚悟していたとはいえ、やはり寂しいニュースだった。

昨年、最下位で苦しんでいたチームに途中加入した彼がFC岐阜のJ2残留に果たした功績は非常に大きい。13試合5得点、特に9/22に残留争いの直接対決、ガイナレ鳥取との“浅中決戦”で2ゴールを挙げてチームを勝利に導き、試合終了後にはスタンドを乗り越えて僕らサポーターと喜びを分かち合ってくれた。あの1勝が、降格した鳥取と残留した岐阜の明暗を分けたのは間違いない。もしJ2に残留できなかったら、今年の岐阜もまた、(想像したくないが)なかったことだろう。

また彼は、非常にサポーターを大事にしてくれた選手だった。昨年の12月、みんなが彼の2014年の契約を気にしていた時、Twitterで契約延長を(しかも契約書のサインをアップして(笑))報告して、一部の岐阜サポは「お祭り」状態になったほどだ。また今年の浦和サポの差別ダンマク騒動の時には、(凄惨な民族紛争を経験しているクロアチア人の彼らしく)差別反対をTwitterで主張し、これに呼応した岐阜サポを「誇らしい」と表現したりもした。また愛称の“ハルク(アメコミのヒーロー)”と同様、ピッチの外では穏やかな好青年(しかも理学療法の医学部卒!)だったが、一旦ピッチに入ると闘志むき出しで暴れ回る“緑の巨人”だった。

今年はラモス監督のチーム戦術・選手起用にフィットしなかったのだろう、6試合の出場に留まり、第2ウインドー(移籍期間)を迎えるにあたり、いわゆる外国人枠3人(ナザリト、ヘニキ、スティッペ)がどうなるか…と噂されていた矢先での退団発表だった。寂しいけれど、選手との出会いと別れはクラブそしてサポーターの宿命でもある。彼には、これまでの活躍に心からの感謝を捧げたい。

7/15、長崎に加入することが発表された。同じJ2しかも長崎か…と思わなくもない(苦笑)が、彼が長崎で(岐阜戦以外では)再び活躍することを願うし、そして(敵としてだが)再会できることを嬉しく思う(試合前には拍手を、試合中には容赦なくブーイングするけど)。短い間だったけど、本当にありがとう、ハルク。(ささたく)

●その日の空は台風一過の晴天。雲一つない……というワケではなかったけど、夜空にはとても大きくてキレイな満月が浮かんで、ボクらの目を楽しませてくれた。そんな心地の良い日に、地上ではついに彼についての情報が公式にリリースされていた。できれば、目にしたくなかった悲しいニュース。かねてより気になっていたスティッペの動向は、最も残念な形でピリオドを打つことになってしまった。

実際のところ、彼の起用の仕方などから雰囲気的にある程度この結果は予測できていて、それは何人かの観戦仲間とも共有していた部分だったから、正直に言うと衝撃を受けたというようなことはなく、驚きもない。ただ、やっぱりか……という、とても寂しく虚ろな思いがあるだけだ。このクラブが、今季もJ2にいられるのは、彼の活躍によるところが大きい。それに異を唱える岐阜サポはいないだろう。このクラブが残留を決めて、彼がとんでもないクリスマス・プレゼントを贈ってくれた時、いったい誰がこんな結末を想像することができただろう? どうして、こんなことになってしまったんだろう? 思えば、新監督を迎えての別府キャンプで手を骨折したことが、今回のきっかけとなってしまったのだろうか? さらに、開幕当初のビッグチャンスが決められなくて、そこにケガが重なって……という悪循環。彼自身の流れというか、歯車に微妙なズレができたまま、最後まで修正が効かなかったような印象がある。それがとても歯がゆいし、残念でたまらない。本当に悔しい。

このクラブの歴史でも、あまり見るのができなかった「早くして強いテクニシャン」。彼が初めて出場したのは、ホームで

の水戸戦。その時に記したボクの感想は「あと、スティッペはよさげ。かなり、やれるんじゃないかな?」だった。なんて失礼なコメントだろ。この場を借りてお詫びします。本当にゴメンナサイ。

思えば本当に短い、一年にも満たない限られた時間の中で彼はいろんなプレーを見せてくれたし、いくつもの感動と興奮を与えてくれた。浅中でのドウ・ピエッタ(2得点)はその最たるものだが、ボクにとって忘れられないのは、平日開催となった10月のアウェイ横浜戦だ。群馬、鳥取と当面の敵を撃破した後、10人になりながらギリギリで勝ち点1を加算できたアノ試合。その同点ゴールをオシャレに決めてくれたのが、交代出場の彼だった。ゴールを決めた後の両手を広げた「どうだい?」とでもいうようなポーズまでもが洒落っていて、10人になるまでの彼のパフォーマンスは最高だった。あの場に居合わせたことを、ボクは今でも幸せだと思う。そして、何より、年末の画像入りツイート。思いもよらない、まさにサプライズなプレゼント。あの時の感動は、たぶん終生忘れない。彼が、このクラブのために尽くしてくれたことに、誰よりもサポーターを大事にしてくれたことに、心からのありがとうを贈りたい。ゴメンナサイと一言添えて……。間違いなく、今まで在籍した外国籍の選手の中で最高の選手だった。なのに、試合が終わればメガネの似合うインテリジェンスな雰囲気漂わせる好青年というギャップもたまらなかった。本当に、彼はボクらのヒーローで、レジェンドで、そしてかけがえのないフレンドだった。「好漢」ハルク・スティッペの前途に幸多からんことを。また会おう!(ぐん、)

●昨年の夏に岐阜にバージェとともに移籍して来た時は、FC岐阜とバルカンの間にはどんなパイプがあるのかわからなかったこともあり、期待はしつつも「よくわからない」というのが本当のところだったのをカムアウトします。

しかし、J2残留そしてクラブ存続の危機的状況での彼の活躍、特に大垣浅中の鳥取戦での2ゴールでサポーターの心は一気に持ってかれてしまった。「シュートってのは、相手キーパーが届かないところに、相手キーパーが届かない速さで蹴ればゴールに入るものさ」とサラッとやっているような、そんな2ゴールだった。その後も、アウェイの横浜FC戦と山形戦で貴重な同点ゴールを決めて勝ち点1を持ち帰ってくれた。「彼なくしてFC岐阜のJ2残留はなかった」と言い切ったとしても、何の問題もないだろう。

しかし、今季のFC岐阜は劇的といつていいほど、激しくいろいろと変わった。監督も変わり選手層も大きく変わり、サッカーの質も変わった。スティッペが活躍出来る環境では、少しずつなくなっていた。ラモス監督が若手を積極的に(辛抱強く)使い、そしてその若手がキチンと内容と結果を出し始めるに従って、彼のポジションはなくなっていった。

今回の契約解除がスティッペからの申し出なのか、クラブからの申し出なのかはわからない。でも、「双方で協議の上」との公式発表なのだから、納得の退団だと信じたい。

ありがとう、ハルク・スティッペ。間違いなく、これまでのFC岐阜がめぐりあったことがなかった、すばらしい外国籍選手だったよ。

幸いなことに、退団して数日も経たないうちに次の職場が見つかったようだね。さらに、別れて一月も経たないのに、もう再会出来るなんて。でも、あなたがFC岐阜の選手のことをよく知っているように、FC岐阜の選手もあなたのことをよく知っている。これまでの功績にはしっかり感謝して、これからは警戒すべき敵の司令塔。8月3日の諫早ではガッチリ抑えてやりますよ。(吉田铸造)

